

団体名	秋田地域留学生等交流推進会議						
事業名	第三の故郷を見つける農家民泊2018						
実施期間	平成30年10月13日-14日および11月10日						
場 所	仙北市西木町						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	42	8	14	16	8		88名

<実施内容>

「第三の故郷を見つける農家民泊」と題し、留学生の出身地、秋田県内での勉学・生活の地に加え仙北市西木町を第三の故郷として見つけ出してもらうことを目標としたツアーで、今年度で開催10周年を迎えました。秋田県内の留学生や日本人学生と地域農家の方々がグリーン・ツーリズムを通じて交流を深めました。

この事業では、二回の農業体験プログラム(農業体験ツアー、収穫感謝祭ツアー)を実施しました。10月13日-14日の農業体験ツアーでは各農家に分かれて、農作業と民泊を体験しました。ツアー1日目は、農家ごとに薪運び、栗拾い、きりたんぼ作り、野菜の収穫、収穫した野菜での料理作りなど、地域性と各農家の特色を生かした体験が行われました。ツアー2日目は、参加者全員が一堂に会し、各農家で作った料理を持ち寄っての食事会と1日目の振り返りを行いました。

11月10日の収穫感謝祭ツアーでは、笹の葉餅作りや餅つき体験とともに、農業体験ツアーで撮影した写真を使い、グループごとにアルバム作成を行いました。作成したアルバムは農家の方へプレゼントとして贈りました。普段の学生生活では体験することのできない農家での体験や地域の人々との交流は留学生・日本人学生ともに満足感が高く、意義深い行事であったとの声が多く聞かれました。

<記録写真>



10周年記念集合写真



収穫体験



豊かな自然の中で

<参加者からのコメント>

成田 恭歌さん(日本)/Narita Kyoka

私は率直にこの農業・民泊体験に参加できて本当によかったなと感じています。まず、民泊体験では、留学生のみんなと大学にいただけでは体験することができない「日本の農業」に触れることができ本当にうれしかったです。留学生のみんなにとっても、日本の農業文化に触れる機会はなかなかないと思うのでとても良い経験になったのではないのでしょうか。私は、青森県出身で、しかもリンゴ農家をしている家で育ったので、留学生のみんながバツなどの虫を怖がっていたり、仙北の綺麗な空気に気持ちを落ち着かせたり、風景に感動したりしている姿がとても新鮮でした。実際にお世話になった門脇さんのお家は、いかにも日本らしい家のつくりで、その立派さに留学生の2人だけでなくわたしも圧倒されていたし、2人も実際に日本らしいおうちに泊まることができとても幸せだったと言っていました。

農業体験では、門脇さんのお家のビニールハウス内でのトマトの収穫のお手伝いをしたり、枝豆取りを手伝うことで野菜のありがたみを感じるとともに、大学生生活の多忙さで忘れてしまっていた自然の豊かさも改めて感じる事ができました。特に、門脇さんのお家のミニトマトは甘くて本当においしかったです。スーパーの市販のミニトマトとは比べ物にならないくらいでした。実際にお家の中では、主にご飯支度を手伝わせてもらい、みそたんぼやきりたんぼ汁をごちそうさせてもらっただけでなく、門脇さんのお子さんやご両親とも交流を深められたことで家族の大切さや温かさを深く感じました。ご飯は朝から晩までおいしいごちそうをたくさん作ってくれたことに改めて感謝したいです。

11月の餅つき大会では、留学生も大好きなおもちをみんなでつきました。私にとっては小学校以来の餅つきだったので体力がおいつかないとともに、おいしいお餅を食べるにはこんなにも苦労が必要なのかと、民泊同様、食べ物のありがたさを実感しました。しかし、留学生は力が要ることなど忘れて餅つきを心の底から楽しんでいるのを見て、本当に日本が好きなんだと感じましたし、仙北のみなさんも留学生のこういう顔がみたいから毎年こういう機会を開いてくれるんだなという、仙北という町全体の温かみを実感することができたと思います。最後のお別れはすごく寂しくて、県外から来たわたしにとっては今でも秋田のお母さんだと感じていますし、何よりも留学生のみんなにとっては日本のお母さんという存在になったと思います。

最後になりますが、こういう留学生と交流できる場を開いてくれたこと、また秋田の良さを感じさせてくれたこの企画を考えていただき、本当にありがとうございました。また絶対に会いに行きたいと思いましたが、農業の大切さ・仙北の人々の温かさを感じました。本当にありがとうございました。

王 鵬鵬さん(中国)/Wang Pengpeng

最初にこの農家民泊の活動をするのは、今年6月のことでした。「世界各地からの留学生たちと交流することができ、非常に貴重な経験だよ」と先輩に誘われて、活動開催のメールが来たとき、申し込みました。当日に、一体どういう人と出会えるかなという不安な気持ちがありながら、バスを乗って、出発しました。

その後、西木村、佐藤さんのお宅「里の灯」に到着して、他の留学生たちと一緒に簡単な自己紹介をしました。今回4人は中国人の私を含め4人の留学生がいました。二人は国際教養大学のタイ人やフランス人留学生である、もう一人は秋田工業専門学校のラオス人留学生である。みな日本語はあまり上手ではないから、秋田大学の市嶋先生が通訳の役として同行していただき、本当に助かったと思います。

おばあちゃんが準備してくれた昼ご飯を食べた後、本番の農家体験ようやく始まりました。最初に体験させていただいたのはトラクターの運転でした。私はトラクターの運転は初めてですので、うまくいけるかどうか悩むところ、おじいちゃんが傍に優しく教えてくれて、楽しみに運転することができました。そのあと、里の灯に戻って、庭できりたんぼをつくりました。使ったのは秋田誇りの新米でした。きりたんぼが焼けるまでの間、おじいちゃんと昔の農家生活について話をしながら、薪割りも体験させていただきました。薪を簡単に当てると思ったのに、想像以上難しかったです。

夕方になると、晩ご飯をするため、おばあちゃんに連れられて、野菜を取って行きました。農薬が一切使用しなく健康にとっても効果があるという、一番印象に残ったのは食用菊でした。金色の夕焼けの下で黄色の食用菊に囲まれて写真も撮りました。私は普段あまり料理を作らないタイプですから、今回取った野菜で作った晩ご飯を食べて、本当に美味しかったと思います。また、おじいちゃんは食事後三味線を弾いてくれました。かっこよくて本物の日本風でした。